

作成: 芝崎

30. 一般篇 : 小さな親切

(1) 地下鉄で隣に座ったおじいさん(80代後半)が降りようとしても立ち上がれない。隣にいた私は彼の腰をちょっと押してあげたら、すっと立てたので、無事降りることができた。《感謝される》
ほんのわずかな力が足りないのだと思う。

(2) バス停留所で待つて並んでいる時、前にいたおばあさん(80代前半)が急に振り向いて、私にペットボトルのキャップを開けてと言う。開けてあげたら、《感謝される。》ほんのわずかな力が足りないのだと思う。
共にちょっとした力が段々と下がってきてのだと思う。寂しいけど、歳にはかなわないのだと実感する。
まさに自分の近未来を想像した時でもあった。

笑いのポイント(笑点)

ち:(ち)よつとしたところで「力」が出せない

か: 体(か)の変化が起こる

ら: 楽(ら)に立ち上げない、楽にキャップがあかない

ぶ: 無(ぶ)事対応できてよかった

そ: 想(そ)定していなかったけど、

く: 苦(く)勞せずにしていて、自分は将来大丈夫かなとふと思う。



思いがけところで老いの変化の一端を見る。今は今、その時はその時と気持ちを切り替える。
力まず、力を蓄える努力はこれからも必要だと実感した。改めて、継続は力也という言葉の思い出す。
この時、母がなるようにしかならないと言っていた事を思い出す。ある意味、正しい。でも、努力は必要だし、見えなかった能力が発見できる可能性もあるかもしれないと反発力で、実践しても過去では無理しても背伸びをしても結果は母の言葉通りに、人生の歩みで得た生き抜く力があるのだと思う。
偶然出会った二人の方も体力下がっても母と同様に独自の生き抜く力持っているのであろうと、ふと思った。



以上